

日本語と英語のカジュアルな言い方はどう違いますか
(Differences in casual speech between English and Japanese)

ステファニ・ワン
Stephanie Wang

82-373 Structure of the Japanese Language

1. はじめに

この作文のトピックは日英語のカジュアルないいかたの違いだ。例えば、日本語と英語は、友達の話で、調子と言葉はちょっと違うんだ。使った表現も違うんだ。英語のネイティブスピーカーはもっと直接。日本語のネイティブスピーカーは少し遠慮します。このトピックは面白いし、そしてすごく身近なトピックだ。私は、東京で留学した時に、そくごがおおき聞いた。でも、他の大学生の調子をあまり分からなかった。だから、この日英語の比較を選んだ。日英語のカジュアルな言い方の違いについて調べるために、いしずかちひろの「フライングウィッチ」(2016)と言ったアニメだ。アニメはJ.C.Staffで描いた。ちょっとファンタジーの感じがあるけど、たくさん青年の話がある。

2. 日英語比較

2. 1. 日英語の違いのデータの分類

データ 1

英語	日本語
Kei: <u>You might get lost on your own.</u>	けい: <u>まこと一人じゃたどり着けないかも。</u>
Makoto: <u>That again? I'll be fine. How far is it?</u>	まこと: <u>また、大丈夫ですよ。どのぐらいかかるんですか。</u>
Kei: Twenty minutes if you walk.	けい: 歩きで二十分。
Makoto: <u>Oh, yeah. That's impossible for me.</u>	まこと: <u>あ。まよいますね。</u>

Episode (min): 1 (8:41-8:52)

データ 2

英語	日本語
Nao: <u>You've never said that in your life.</u> Quit trying to sound cool.	なの： <u>いってねよ。</u> かこつけな。

Episode (min): 1 (15:35-15:37)

データ 3

英語	日本語
Nao: <u>She's even worse than Kei.</u>	なお： <u>けい以上マイペースだ。</u>

Episode (min): 1 (19:32-19:36)

2. 2. 日英語の違いの説明

データ 1 では、まことの英語の翻訳、「That's impossible for me」、が自分の性能中心だ。まことは無理な感じを受け入れた。でも日本語の文では、まことがけいの意見を受け入れる、自分の能力をコメントしなかった。それに、まことの英語の翻訳は否定的な「That's impossible for me.」と言ったけど、日本語は肯定的な「まよいますね」と言った。けいの英語の言った「You might get lost on your own.」は肯定的だが、日本語のは否定形を使った。

データ 2 では、なおの英語の翻訳が誇大だ。英語の言葉「never」と「in your life」はそういうことだ。なおの日本語のセリフのほうが簡単だ。否定形の「いってねよ」と言っただけ。なおの英語のセリフは代名詞を使った。日本語の「けい」とか「彼」とか言わなかった。

データ 3 では、なおはまこととけいをくらべる。英語では、けいよりまこと少しのほうがよくないと言った。その比較は否定的だ。日本語では、まことはもっとマイペースの人だ。日本語の比較は肯定的だ。それに、英語では、代名詞を使ったので、けいもまことも述べた。日本語では、けいしかのべなかった。まことは言外な主語だ。

2. 3. 日英語の文化的見方の違い

日本語と英語の文化的見方は違う。英語のネイティブスピーカーは、^{そっちよく}率直するのがていねいだと思っている。そして、正直と開放性を買っている。日本語ネイティブスピーカーは、そう思っていない。実は、日本語のネイティブスピーカーは間接的な言い方がていねいだと思っている。例えば、空気を読める人も思いやりできる人も状況をやさしく訳して、ほしいものを仄めかす。だから、その人を見上げる。

英語の文化的見方では有効なコミュニケーションがスピーカーの責任だ。だから、英語のスピーカーはたくさん情報をあげなくてはいけない。日本語の文化的見方で

はいいコミュニケーションが聞き手の責任だ。聞き手は、状況と文脈^{ぶんみゃく}を使って、スピーカーのつもりを思わず分かる。

3. おわりに

日英語のカジュアルな言い方は違う。最初に、使った表現は違う。英語の表現は肯定的だったら、日本語の表現はだいたい否定的だ。それに、英語では、言い過ぎるのはふつうだし、状況をすこし滑稽にするし、だからちょっと誇大だ。日本語では、カジュアルな状況だったら、文句はもっと簡単そうだ。そして、英語は代名詞を使う、日本語を使わない。最後に、英語の答えはスピーカーで自分中心だけど、日本語の答えは問題を聞いた人のつもり中心だ。

英語の文化的見方では、率直を見上げる。そして、いいコミュニケーションがスピーカーの責任だと思っている。反面に、日本語の文化的見方では、間接を見上げる。有効なコミュニケーションが聞き手の責任だ。

データの出典

いしずかちひろ (2016) 「フライングウィッチ」 Sentai Filmworks

参考文献

山田雅重 (1997) 「日英語を比べてみれば」 丸善